

試行いろいろ/門……………石を積む？



門越しに“しころ建て”主屋をみる。

地元の泉州地域では、いまだに伝統民家の設計依頼がある。実は、上の写真の住宅と門も依頼を受け可能な限り伝統に忠実な意匠を試みている。前回“鉄筋コンクリート造”の門を紹介したが、今回は“鉄骨造”の実例で、通常であれば樺の鏡板扉が付いた木造の門になるところ、しころ建て民家では使用する木の材積が一般住宅の数倍にもなることから、施主の注文はあえて木造以外とすること。更なるこだわりは石を”張らない”で”積む”こと。いわゆる“張りぼて”を行わないことが求められた。結果、中央を繰り抜いた御影石を鉄骨柱の上から一枚ずつ落とし込んだ石柱である。全て木を表しで仕上げた軒裏に鉄骨梁も潜ませ、鉄骨の柱・梁を見せない”鉄骨造一部石造”の門である。



道路から“退き”を大きくした前庭



石積み柱、木化粧天井、SUS 特殊加工門扉